



発行所  
一般財団法人滋賀県遺族会  
滋賀県大津市京町4丁目3-28  
(滋賀県厚生会館1階)  
電話 (077)522-7227  
FAX (077)522-7233  
発行責任者  
滋賀県遺族会会長  
今堀 治夫

滋賀県遺族会

新会長に今堀治夫氏

山川芳志郎氏の後任

滋賀県遺族会は、2月20日に臨時理事会・評議員会を開き、一身上の都合で会長職辞任の申し出があった山川芳志郎氏の後任に、今堀治夫副会長を選出した。また、新任の副会長には辻正人氏が選ばれた。なお、今堀新会長の任期は、3月から令和6年5月まで。  
(広報委員会)

新会長就任あいさつ

滋賀県遺族会会長  
今堀 治夫



この度、山川会長の退任を受け、はからずも後任を務めさせていただきましたこととなりました。あまりにも突然のこと故、恐縮の極みでございます。身を引き締まる思いでございます。  
もとより浅学菲才、大変微力ではありますが精一杯務めさせていただきますので、会員の皆様方の格別のご指導、お力添えを賜わりますようお願い申し上げます。

副会長就任あいさつ

滋賀県遺族会副会長  
辻 正人



この度、任期中の会長交替人事に伴い、図らずも副会長の重責を担うこととなりました。個人的

上げます。  
前会長が、滋賀県遺族会の活動の柱とされてきた、①英霊の顕彰②戦争の風化防止③遺族の処遇改善④恒久平和実現活動を、私自身基本として、1年数か月の残任期間、全力で務めさせていただきます。と、考えております。  
会員の皆様方の温かいご指導やご叱声を頂戴することが出来ますならば大変ありがたいと存じております。  
どうぞよろしくお願いを申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

には「賛助会員の立場で副会長は…」との思いもありましたが、御推挙いただいたからには、お役に立てるよう精進して参ります。  
私自身、孫世代の遺族として遺族会活動に参加して10年を超えました。県の青年部会長、日本遺族会青年部長として責任ある立場で活動に参加し、多少なりとも遺族会の本質を理解できたのかなと感じております。

令和5年度 滋賀県遺族会の主要事業計画

※事業計画は新型コロナウイルス感染拡大等の影響で、中止・変更される場合があります。

実施日	事業名	場所
令和5年4月5日	滋賀県護國神社春季例大祭	滋賀県護國神社
5月26日	第235回理事会、 第57回・第58回定時評議員会	県立武道館
5月27日～29日	沖縄「近江の塔」平和祈念戦没者追悼式、 戦跡慰霊巡拝	沖縄県摩文仁の丘ほか
6月27日	第236回理事会	未定
7月～ 令和6年3月	海外戦跡慰霊巡拝	パプアニューギニア・ 中国・フィリピン いずれかの2カ国
8月13日～15日	第47回みたままつり	滋賀県護國神社
8月15日	政府主催全国戦没者追悼式参列	日本武道館
8月15日	第1回合同会議	滋賀県護國神社
8月26日	平和祈念・県下戦没者追悼式(滋賀県主催)	滋賀県立体育館(大津)
未定	第3ブロック会議(日本遺族会)	未定
9月15日	皇子山陸軍墓地慰霊碑の彼岸法要・ 滋賀県戦没者英霊塔(膳所公園)の彼岸法要	大津市皇子山陸軍墓地、 膳所公園 ほか
9月(未定)	第237回理事会	未定
9月23日	令和5年度女性部研修会	県立男女共同参画センター
10月5日	滋賀県護國神社秋季例大祭	滋賀県護國神社
10月14日	滋賀県戦没者遺族大会	八日市文化芸術会館
11月3日～5日	第1回青年部研修会	北方領土
12月9日	第238回理事会、第2回合同会議、 国会議員県議会議員とのつどい	アヤハレークサイドホテル
12月上・中旬	日本遺族会戦没者遺族大会と国会議員陳情運動	自由民主会館ほか
12月31日～ 令和6年1月1日	除夜祭、元旦祭	滋賀県護國神社
1月5日	新年祈願祭	滋賀県護國神社
3月10日～11日	第50回靖國神社参拝旅行	靖國神社ほか
3月(未定)	第239回理事会	未定
3月23日～25日	第23回次世代戦跡訪問研修事業(鹿児島)	鹿児島県知覧ほか
毎月15日	滋賀県戦没者英霊塔月並法要 正・副会長会議	膳所英霊塔、滋賀県厚生会館
適時	各市町要望活動	各市町
適時	各郡市町遺族会 会長会	滋賀県厚生会館
適時	海外戦跡巡拝写真展	随所
令和5年10月以降	令和6年～7年役員改選関係会議	滋賀県厚生会館
適時	ウクライナ侵攻による人道危機救援金の募集	

前会長退任あいさつ

滋賀県遺族会前会長  
山川 芳志郎



このたび、一身上の都合により令和5年2月20日開催の臨時理事会・評議員会をもちまして滋賀

県遺族会会長を退任致しました。  
思いかえせば令和4年5月26日の理事会・評議員会で第10代会長に選任され、わずか9か月で退任することになりました。残念です。一身上の都合の主な理由は健康上の都合によるもので、健康への配慮不足を今更ながら悔やんでいます。  
この間、会員の皆様をはじめ関係者の皆様から深いご理解とご支援をい

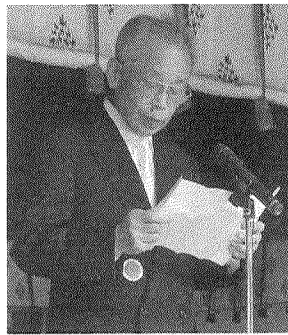
いただきましたことに厚くお礼と感謝を申し上げます。  
これからは一人の会員として健康回復に一層努力・留意し、遺族会の発展と英霊顕彰の進展に微力を尽くして参りたいと存じます。  
まずは略儀ながら紙面をもってお礼かたがた退任のご挨拶と致します。誠にありがとうございます。

### 靖國参拝を終えて

祭祀委員会(靖國) 横田勝弘

靖國神社の昇殿で、父の姿を思い浮かべ「お父さん」と呼びかけ、我が家の近況を報告出来た時間が幸せでした。

今年も参拝後、一路首都高道路、伊豆縦貫道を走り、晴天時には伊豆七島が望める宿「下田ビューホテル」へと向かいました。



眼下に海が広がる高台に建つホテルでは、温泉で日頃の疲れを癒やし、懇親会では4年振りに会員相互の親睦を深めるひと時を過ごす事が出来ました。

2日目は前日とは打って変わり、温かい天候に恵まれた中、少し時期を逸してはいましたが、早咲きで有名な河津桜並木の散策と、川端康成が19歳の時に伊豆を旅した実体験を基に書かれた短編小説「伊豆の踊り子」の舞台でもあった河津川の渓谷、伊豆の山並みを車窓から眺めながら伊豆縦

貫道を通り、伊豆ブルーパークで休憩の後、東名高速沼津インターより帰路に着きました。途中、焼津さかなセンターでの昼食と買い物ですませて旅の思い出を胸に、2日間の参拝旅行を無事終える事が出来ました。

尚、今回の旅はバス台数が少なかつた為、帰路で一部ご不便をお掛けしました事をお詫び致します。会員皆様におかれましては健康管理に十分留意され、来年も靖國神社において、一人でも多くの皆さんとお会い出来る事を楽しみにしております。

### 長崎方面戦跡慰霊巡拝の旅を終えて

英霊顕彰委員会 岡本勝一

年頭より毎日寒い日が続く1月22日の朝、曇天の中、自宅を出発しました。

今回は、海外戦跡慰霊巡拝の初めての代替事業、国内戦跡慰霊巡拝という事で、長崎方面に向かいましたが、いつもより少ない総勢30名の参加でした。

この慰霊祭を催行したのは、「大東亜戦争戦没者慰霊塔」「特攻殉国の碑」「長崎県忠霊塔」「ある小さな港の船着場」でした。このうち「特攻殉国の碑」前では、今回参加して頂いた滋賀県護國

神社の山本禰宜さんによる「神式慰霊祭」を齎行しました。又、「長崎県忠霊塔」においては、管理者の方に「慰霊祭」を仕切って頂きました。感動したのは、碑のところで「佐世保海軍墓地保存会」会長および「長崎県遺族会」会長から歓迎の言葉を頂いたことです。

戦跡地として、大東亜戦争終結後、フィリピン・マニラの日本人収容所から長崎・浦頭港に運ばれた遺骨6000余柱が茶毘に付され埋葬された「釜墓地」と、戦争末期に横須賀から川棚に

移され、数千人の若者が厳しい訓練に明け暮れていた「臨時魚雷艇訓練所跡」の2か所でした。初日は雨、2日目が快晴、3日目は雪模様という天候でしたが、最後に「長崎護國神社」に参拝して旅を終えました。3日間全員何事もなく無事帰ることができ、ほっとしました。ただ、最終日に10年に一度の寒波到来と重なり、急遽予定変更のため、一部見学できなかったことは残念でした。

今回お世話になった方々、ありがとうございました。

### 次世代戦跡地訪問

次世代活動委員長 安佛久夫



令和4年度「次世代戦跡地訪問研修」は、コロナ禍による3年間の空白後に実施された意義深い研修となりました。

研修となり、青年部からも久保副会長を含め6名の協力を得ての実施となり、各市町の協力の下、高校生1名を含め小中合わせて41名が参加。充実した規模の研修訪問となりました。

志布志港からの戦跡地訪問は、素晴らしいボランティアの方々、楽しいバスガイドさんの語りと共に、私たち一行を温かく案内してくれました。研修地の語り部のみなさんが語ってくださる「命の尊さ」「戦争の悲惨さ」「平和の大切さ」は、「語り継ぐべき事」として研修する一人一人の心に響きました。

式典の最後には、全員で「ふるさと」を合唱しました。この観音堂で歌う「ふるさと」では、万感の思いがこみ上げ、言葉に詰まり、涙がこみあげてくるのを抑えられませんでした。

が、月日が忘れさせるものではありませぬ。遺族には「残された戦争の傷跡」を語り継ぐ役目があるのです。

特攻兵士のこと。それらによって、戦争は「人」としての心さえも残酷に打ち砕く、悲惨きわまりない、絶対にあつてはならないこと」と感じました。

滋賀県遺族会の誇れる事業の一つとなったと実感しました。



### 日章旗が遺族のもとに

滋賀県遺族会副会長 田畑啓之助



生活を享受している現在、戦地で散華された戦没者の遺品が遺族のもとに戻り、戦没者ご遺族は、この日が本当の終戦日と思っ

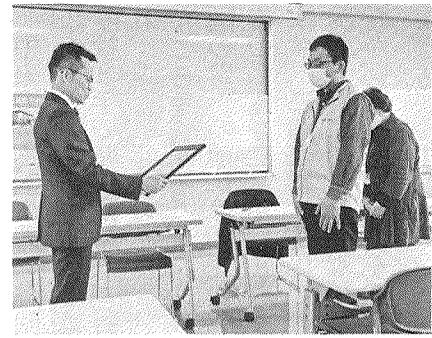
に残念であったと推察します。日章旗は、三日月大造滋賀県知事より遺族に手渡されました。戦後77年が経過し、平和な日常

ておられると感じています。長い苦しい戦いが終わり、形見という姿に変わり、生家に帰る道程は遠かったが、やっと我が家に戻って、今は亡き肉親、立派に成長した家を守ってくれている我が子らに会って安堵しておられる事を想像すると、故人、ご遺族の心境はいかばかりか。感慨無量、万感胸に迫る思いが致します。ご英霊のご冥福を心よりご祈念申し上げます。

なお、この事業は、米国のNPO法人「OBONソサエティ」のお力添えにより遺品の収集を行っております。又、本県遺族会相談役の國松善次氏にも大きなお力添えを頂いており、感謝しております。

# 県知事から感謝状

## 滋賀県平和祈念館ボランティアグループ



滋賀県平和祈念館は平成24年に開館し、昨年3月で10周年を迎えました。開館時より、館事業に協力することを目的に「滋賀県平和祈念館ボランティアグループ」が組織され、現在は来館者案内、戦時食、演劇、手紙等解説、写真週報、聞き取りの各グループで活動

# 女性部研修会に参加して

## 湖南市遺族会女性部長 立入美奈子

家の庭のしだれ梅がきれいに咲き、毎日ながめながら「今日もがんばろう」と気持ちを新たにしています。

令和4年6月2日、女性部研修会が、湖南市遺族会の白井勇会長、大継義光副会長、女性部会員の皆様の出席のもと盛大に開催されました。開催の趣旨は、高齢化が進む中、戦没者女性遺児は、本会組織の後継者であるとの認識のもと、青年部とともに組織の一層の充実化を目的として開催されました。

東近江市の中澤光子さんの体験談、アトラクションは劇団アラネットカンパニーの方々の「あの日」の「あの日」という題目の演劇でした。当時参議院議員の水落敏栄日本遺族会会長のお

されています。

この度、その活動に対する滋賀県知事からの感謝状が授与されることになり、4月23日に開催された令和5年度ボランティアの会総会の席上で、大岡県健康医療福祉部長から福島会長に伝達されました。

本年度のボランティア登録者数は51名で、その

# 報恩感謝の心で

## 滋賀県護國神社「春季例大祭」

### 滋賀県遺族会副会長 中川真澄

若葉萌え、桜美し4月5日、国会議員秘書をはじめ、多数のご来賓、県内各地からの遺族会員参列のもと、戦没された3万4000余柱の御祭神への慰霊の祭儀が滋賀県護國神社にて厳粛に斎行された。

御内陣の御扉が開かれ、海川山野の神饌が神職の手から手へと順に御神前に進められると、山本賢二宮司は国家の安泰と揺るぐことのない世界平和を祈念し、祝詞を奏上された。



「相嘗を通じて神は人を守り、人は神を敬い祈願、報謝する」と教わるが、御祭神が歩まれた時代の食事情を鑑みると筆舌に尽くし難い。神饌の献供に接することで、今日の食の有難さと同時に御祭神への感謝の念を抱かずにはいられない。年に2回斎行される例大祭は最も重儀な祭典として、今なお途絶える事なくお伝えされている。

# 北方領土を視察して

## 滋賀県遺族会事務局長 森野愛子

北方領土が第二次世界大戦終了直後、旧ソ連軍に不法に占拠されてから77年が経過しました。

北方領土返還要求運動 滋賀県民会議は、昭和57年10月に設立され、返還要求運動を展開。昨年10月には「第40回北方領土視察」が実施されました。政府も今日まで粘り強い交渉を行ってきたものの、昨年2月ロシアがウクライナに侵攻したこ

とにより、日本の対露制裁に反発し、平和条約交渉の中断や「ビザなし交流」の破棄で、以前より状況は悪くなっています。しかし、北方四島交流センターでの元島民の講話や、高校生による講話や、元島民との交流会でのお話などを聞き、誰もが一日も早い北方領土返還を願っているのだという熱い気持ちが伝わってきました。昔、近江商人

# 沖縄「近江の塔」戦没者追悼式典に参列して

## 甲賀市遺族会 西浦 富一

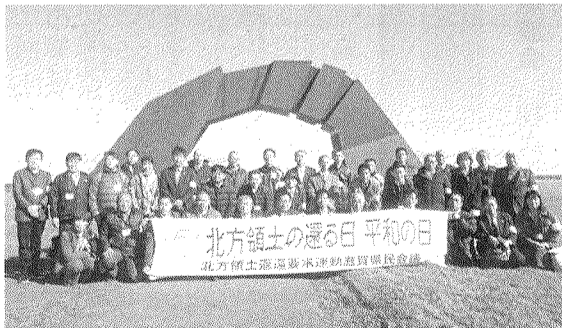
今年も沖縄「近江の塔」戦没者追悼式典に参拝させていただきました。

戦禍の犠牲となられた戦没者に、平和で平穏無事な毎日の喜びを感謝報



告させて頂いたのです。しかしながら、此処一、二年の世界情勢は、ウクライナ戦争による戦場の悲惨さが毎時伝えられ、国民の若い世代の考え方も大きく揺れ動いています。我々の平和の願いとは裏腹に、現実の悲劇を子供たちにどう話せばいいのか。英霊の顕彰も遠くなりつつある辛い現実に、心揺れ動いてくるばかりです。

が北海道の漁場の開拓や北方領土の開発に深くかかわっていたことなど、滋賀県と北方領土とのかわりも学ぶことが出来ました。今後も返還要求運動を幅広く広げ、一日も早く還って来るよう願うばかりです。



# 国内民間建立慰霊碑移設等事業費補助金について

この事業は、建立者等が不明または高齢などにより管理状況不良の慰霊碑の移設、補修または埋設等の取組を補助し、もって管理状況不良の慰霊碑への適切な対応（戦没者慰霊や住民の安全確保等）を図ることを目的としています。

補助率は2分の1で、1基につき100万円が上限とされています。詳しくは県健康福祉政策課援護係（077-528-3514）へお問い合わせください。

# ◆滋賀県護國神社 英霊顕彰館だより◆

【入館者ノート】  
☆3月29日 大おじいさんにあいにきました。せんそうに立ち向かってくれてありがとうございます。（東京都男性）  
☆4月30日 本当に英霊の皆様に感謝申し上げます。ただありがたうしかありません。（愛知県男性）  
（参拝者ノートより抜粋）

# 【来館者数】

※ノート記載者のみ

1月	20人
2月	7人
3月	15人
4月	21人
5月	10人

2月24日にロシアのウクライナ侵攻は2年目に入りました。この冬をどうして越すのか心配をしていますが、冬を乗り越えました。現況を見ると、互いに報復をしていますが、ウクライナが反転攻勢を始めたようですが、長期化の様相です。心配です。

期待していたG7は終わりました。皆が協力して、一日も早いウクライナ・ロシアの終戦、世界の恒久平和の実現が皆の願いです。  
（広報 東郷重明）

# ふじのなみ

## 忠魂碑の維持管理と遺族会組織の存続について

東近江市遺族会平田支部長 平井 康博

戦後78年の歳月の流れと共に、戦争を知らない世代が国民の9割を超えるに至った今日、戦没者「英霊への「尊崇の思い」や「戦争の記憶」が、希薄になりつつあることは否めない現実であります。

昨今、各地域にある「忠霊塔や忠魂碑」の維持管理を如何にするべきかが、遺族会の課題になっていきます。これら先人の心を思うとき、其々地域の方々が、戦役に殉じられた戦没者のことを思い地域を挙げて「忠霊塔や忠魂碑」を建立されたのだと思います。

私の地域の「忠魂碑」は大正11年5月に建立されてお

り、日露戦争の戦没者から第2次世界大戦（支那事変・大東亜戦争）までの戦没者全てが今日まで祀られてきました（現在の殉職者名簿による）。その間、この忠魂碑も、蒲生郡平田村平田尋常高等小学校敷地（旧・平田小学校敷地内）から、敗戦後、連合軍の指揮のもと行政指導で、強制的に現在の光明寺境内に当時の地区区長会が平田地区の「忠魂碑」として移設され、今日まで守り祀られてきました。

旧平田小学校敷地にあった忠魂碑前では、卒業写真や「戦時中に地区内の各お寺から戦争の為、釣鐘等の拠出時に当時の村長と各お寺の住

職」が写真撮影されています（滋賀県平和祈念館保管）。こうした歴史的に貴重な遺産は、今を生きる私達は子々孫々まで引継ぎ守らなくてはならない。その為にも、今後継続して、遺族会組織は存続せねばならないと思います。

それには、現在・戦没者遺族・遺児等が受けている「特別弔慰金」制度の改善と支給対象者の拡大、出来れば「戦没者を祀る遺族会員」全てに「特別弔慰金」が頂ける仕組みが欲しいものです。これも、戦争を起した国の責任ではないかと思えます。国家の政治を司る人間は、こうした歴史を認識して全ての国民の幸せの為に政治を動かして

霊の場」が消えてしまつてはならないと考え、戦没者・戦争犠牲者の悲惨な事実を後世に引き継ぐ「恒久平和を祈念する場」を設けることになりました。

戦没軍人軍属はもとより、戦争で命を亡くされた方々、戦争による犠牲者として戦後生き抜かれた方々、この人たちは名も無き方々ではありません。この方々には、今の私たちにつながる人生と名前がありました。この方々のお名前を刻み留める「平和の礎」の建立事業は、戦争の愚かさとしみ、平和の尊さを誰よりも厳しく体現された戦争犠牲者および御遺族の方々の御遺志を引き継ぎ、本市が広く市民の皆様とともに追悼と平和を祈念する市民平和運動として行います。

つきましては、米原市遺族会の戦没者名簿により軍人軍属の刻銘をするともに、市民の戦争犠牲者への追悼と恒久平和を祈念するため、戦争犠牲者の刻銘希望者を募り、「平和の礎」を建立します。

## 遺児会員の幾山河

甲賀市甲南町遺族会 匿名希望

昨年11月初めの晴天の元、写真の様な慰霊碑の前で戦没者の慰霊祭が執り行われました。

中央の「殉国の碑」は昭和28年、今から70年前、私が小学校3年の時、除幕式が行われ、遺児最年少の私は参列したことを覚えております。「殉国の碑」の前には58柱の戦没者の名盤が立てかけられています。この名盤は地区の誰の先祖がこの戦地でなくなつたか判ります。戦争を知らない若い世代の人にとっても平和の尊さを生きた教材です。遠くはニューギニア、ミャンマー、フィリピン、近くは沖縄、各務原の航空隊の国内から台湾、中国まで若き戦没者

の名前が見られます。私の父親はフィリピンで、昭和20年2月に戦死していましたが、私が生まれた1月2日にはすでに戦場の人でした。一家の家長が戦死した女所帯の家がどの様な苦難にさいなまれたか疑うまでもありません。私は子供ながら母親の姿を見て自分の置かれた身を感じていました。私が中学校を卒業した時、学校の先生の勧めにも拘わらず就職の道を選んだのは当然の選択でした。就職の前年、伊勢湾台風で古い家の雨戸が浮き上がるのを必死で押さえていたのを忘れられません。

就職の朝、見送りに来た先生の「負けたらあかんで頑張りや」と言われた言葉を今も身にしています。今と言う一流企業に就職し、足掛54年、勤められたのは幸せと言わざるを得ません。私が就職した時代は金の卵と言われた頃でしたが、学歴のなさは悔しさ一杯の思いでした。幸せと感じられたのは一貫して研究に身を置くことが出来、やりがいを持ってたことでした。母親が92歳で亡くなった時、私が69歳で一線を引いた身でありながら、盛花、弔電は素より若い主任研究員や研究員が7名も通夜にかけつけてくれたことでした。身に余る幸せでした。

「今の平和は戦没者の尊い命のも

ほしいものです。戦争とは何か、何の為に、誰が誰の為に、その戦争で何が起り、何が残ったのか、人類は、平和共存できないものか。」

何が起り、何が残ったのか、人類は、平和共存できないものか。

こんな父と同じく多くの戦没英霊たちは、靖國神社、護國神社に祀られています。政府は形だけは慰霊をしています。が、果たして命がけでやっているとは到底思えない。

遺族会は組織を上げて、この事を政府や地方自治体に最後の懇情をすべきと考えます。隣国の異議に尻込みするようでは、「人の命は、地球より重い」と言われた総理がおられました。毅然たる態度の外交努力を期待して我々の命のある間に、この問題が解決する事を望んで止みません。



「最後のお願い」

東近江市遺族会 福島 睦一

私の父は昭和19年6月、2度目の出征の時、「お母さん、戦争は殺し合いだから、自分は負けたら帰って来ない」と言っ出て出立したと祖母から何回聞いたことか。私はこの事が父の本心であったのか想像できない。

父の実直な性格は、フィリピン・マニラ東方山中ボソボソでの戦いで最後は斬り込み隊長として敵前に向かって斬り込み戦死したと、帰還された熊本の戦友からの便りから知る事ができた。こんな父の生き様を私は心から誇りに思っています。

現代は人を騙して成功している人たちが多い社会であるが故、余計にそう思います。

遺族会は組織を上げて、この事を政府や地方自治体に最後の懇情をすべきと考えます。隣国の異議に尻込みするようでは、「人の命は、地球より重い」と言われた総理がおられました。毅然たる態度の外交努力を期待して我々の命のある間に、この問題が解決する事を望んで止みません。